



IDF ホームページ／<http://www.fil-idf.org/>ファクトシートより

IDF 文書を JIDF 事務局が仮訳

IDF ファクトシート 2014 年 4 月

乳・乳製品中の抗菌残留物の管理と測定

抗菌物質は家畜動物医学のなかで、微生物、主に細菌に起因して症状をこじらせる家畜動物の感染症治療、健康な家畜動物への感染拡大防止に用いられています。

家畜生産における抗菌物質を慎重に用いることの必要性

家畜生産において抗菌物質を用いることは、家畜動物の健康と福祉を維持し回復するうえで有意義なことです。しかしながら、抗菌抵抗性の残留や増長を避けるために慎重に用いることが求められます。国際酪農連盟（IDF）は乳生産における抗菌物質について慎重な使用に特化した手引書を作りました。¹

抗菌性の残留物は、特に適切な予防措置を取らずに食品を生産する動物が処理された場合や、家畜動物の生物学的な状態が常軌を逸した場合は、潜在的にフードチェーンのなかに入り込みます。

残留物が健康を害する可能性がある中で、消費者が残留物のない食品に関心を抱くことは当然です。さらに、抗菌物質の残留物は微生物のなかには抗菌機作の形成や選択を導く結果にもなりかねません。

抗菌レベルの法制化

家畜動物の生産において抗菌物質の登録や管理に関する法制化が広く行われています。国家的なレベルまたは国際的なレベルにおいて様々な畜産物に特化した最大残留値

¹ 乳生産における抗菌物質の慎重な用法に関する IDF 手引書（2013）



IDF ホームページ/<http://www.fil-idf.org/>ファクトシートより

(MRL) または安全レベルが定められています。これらは食品の安全性を保つための入り口となります。

リスクを最小化する 2つの基軸

乳および乳製品に存する抗菌物質の汚染リスクは2つの基軸で最小化されます。

1. 適切な管理規範や抗菌物質の慎重な用法により原乳の微生物汚染を避ける。たとえば、家畜動物の健康を維持するための措置や治療中の拘束時間を厳格に守ることなどです。
2. デイリーチェーン全体を通じてなるべく早く、最終的には汚染バッチを測定するための適切な分析手法と手続きで効果的にスクリーニングし、これらのバッチを廃棄すること。統合チェーンマネジメントアプローチと、先を見越して行動する手法が適用されたときに、スクリーニングシステムはもっとも効果的な方法となります。

翻訳：J I D F 事務局

編者注: 仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。